

2022年3月期第3四半期 決算説明資料

2022年2月2日

目次

1. 決算サマリー	P. 3
2. 外部環境	P. 4
3. 2022年3月期 第3四半期決算	P. 6
4. 2022年3月期 通期業績予想	P. 12
5. 参考資料	P. 15
(売上高・営業利益・EPSの推移、酢酸市況推移と変動要因、 セグメント別情報、セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）、 2022年3月期通期業績予想、前提条件)	

決算サマリー

◇ 2022年3月期第3四半期業績

- **売上高3,430億円、営業利益393億円。**21年11月に公表した計画を上回る収益
- メディカル・ヘルスケア、スマート、マテリアル、エンジニアリングプラスチックで収益が計画を上回った
- 収益が計画を上回った背景として、酢酸市況や為替の影響に加え、液晶表示フィルム向け酢酸セルロースなど一部製品の販売数量の増加、価格是正の積極的な推進がある
- メディカル・ヘルスケアで減損損失98億円を計上
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は235億円

◇ 2022年3月期通期業績予想

- **売上高4,620億円、営業利益495億円**に計画を上方修正
- 足元の業績動向、為替レート、製品および原料市況を踏まえて通期業績予想を見直し
- 親会社株主に帰属する当期純利益を290億円に上方修正

市場動向

セグメント	主要製品	主要市場	2022年3月期第3四半期 累計期間の状況	第4四半期の見通し
メディカル・ヘルスケア	化粧品原料 健康食品原料	コスメ ヘルスケア	コスメの国内市場は低調に推移。一方、コロナ禍から早期に回復した中国市場の需要は増加 健康食品の国内市場はコロナ禍での健康意識の高まりにより堅調に推移	コスメの中国市場は堅調ながら、コロナ禍の再拡大や春節の影響を注視 健康食品の国内市場は堅調に推移する見通し
	キラルカラム	ライフ サイエンス	米国の研究機関・大学におけるコロナ禍からの需要回復や、中国・インドのジェネリック製薬向け需要の成長により、キラルカラムの需要は堅調に推移	一部の地域でコロナ禍が懸念されるものの堅調に推移する見通し
スマート	TAC (※) 機能フィルム レジスト材料 電子材料溶剤	電子デバイス 半導体	コロナ禍からの需要回復により液晶パネル需要は好調に推移。10月～12月も液晶パネルメーカーの稼働は一定の水準が維持された その他電子デバイスの需要も増加。半導体市場は旺盛な需要を背景に成長。5G普及による基地局新設、データセンター新設需要なども増加	液晶パネル市場は巣ごもり需要一巡により調整が入る見通し その他電子デバイス、半導体は引き続き高い水準の需要が継続する見通し
セイフティ	エアバッグ用 インフレーター	自動車	自動車生産台数はコロナ禍からの回復により前年同期比で増加したものの、半導体をはじめとする部品供給問題の影響あり	部品供給問題の影響が依然継続する見通し

※TAC (Tri-acetyl cellulose) : 液晶表示フィルム向け酢酸セルロース

市場動向

セグメント	主要製品	主要市場	2022年3月期第3四半期 累計期間の状況	第4四半期の見通し
マテリアル	アセチル (酢酸、 酢酸誘導体、 アセテート・ トウ)	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	酢酸の主用途である酢酸ビニル、PTAの需要はコロナ禍からの回復により好調に推移。一方で北米大寒波、中国環境規制などによる供給面での不安から、市況は高い水準で推移 酢酸エチルの需要もグラビアインキ向けなど各用途で好調に推移。酢酸市況上昇に伴い市況は上昇	酢酸ビニル、PTAの需要は堅調に推移する見込み。一方で供給面は徐々に回復し、酢酸市況は低下傾向 酢酸エチルの需要も引き続き堅調に推移する見通し。市況は酢酸市況低下により下落する見込み
		繊維 フィルター	アセテート・トウの主用途であるフィルターのグローバル市場はコロナ禍からの回復基調が継続	コロナ禍からの回復基調に加え、物流混乱による在庫積み増しにより需要は堅調に推移する見通し
	ケミカル (エポキシ樹脂、 カプロラクトン 誘導体、 その他化学品)	電材・ コーティング 用原料	エポキシ樹脂、カプロラクトン誘導体の主要市場の一つである自動車市場はコロナ禍からの回復傾向にあるものの半導体不足の影響を受けた。同じく主要市場の一つである電子デバイスは好調に推移。	自動車市場は半導体不足の影響を引き続き受ける一方で、電子デバイス市場は好調に推移する見通し
エンジニアリング プラスチック	POM PBT PPS	自動車部品	サプライチェーンの混乱により自動車減産が続くなかでも、自動車部品業界は在庫確保の動きにより需要は堅調に推移	自動車部品市場は引き続き堅調に推移する見通し
		電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンの需要は堅調に推移した一方で、白物家電需要は国内の巣ごもり需要一巡の影響もあり低下傾向	スマートフォンやパソコンの需要は引き続き堅調に推移する見通し
	LCP	電子デバイス	スマートフォン需要が好調に推移。5G普及による基地局新設需要も増加	電子デバイスは引き続き高い水準の需要が継続する見通し

2022年3月期 第3四半期業績

(単位：億円)

	2021/3 3Q実績	2022/3 3Q実績	対前年同期	
			増減	%
売 上 高	2,814	3,430	+616	+21.9%
営 業 利 益	187	393	+206	+109.8%
経 常 利 益	202	432	+230	+113.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112	235	+123	+109.2%
為替レート USD/JPY	106	111		

- コロナ禍の影響を大きく受けた前年同期と比較して幅広い産業で需要が回復し、セイフティ、エンジニアリングプラスチックを中心に販売数量が増加
- コロナ禍による世界的なコンテナ不足や燃料費上昇により販売直接費が増加したものの、販売数量の増加、酢酸市況の上昇、原燃料価格・物流費上昇に伴う販売価格是正、事業構造改革の推進が増益に貢献
- メディカル・ヘルスケアで減損損失98億円を計上（化粧品原料プラント、海外子会社のれん）

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

（単位：億円）

売上高	2021/3 3Q実績	2022/3 3Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	120	146	+26	+21.9%	+22	+4	+4
スマート	176	240	+65	+36.8%	+53	+12	+1
セイフティ	467	503	+37	+7.8%	+11	+25	+30
マテリアル	749	892	+143	+19.1%	△ 4	+147	+24
エンジニアリング プラスチック	1,212	1,568	+356	+29.4%	+174	+182	+40
その他事業	91	80	△ 10	△ 11.4%	△ 10	-	-
合 計	2,814	3,430	+616	+21.9%	+246	+370	+99

営業利益	2021/3 3Q実績	2022/3 3Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
メディカル・ヘルスケア	12	26	+13	+110.5%	+19	△ 2	+2	△ 4
スマート	21	49	+28	+134.0%	+28	+2	△ 0	△ 2
セイフティ	6	44	+38	+671.6%	+20	+13	+10	+4
マテリアル	109	183	+75	+68.8%	+10	+52	+12	+13
エンジニアリング プラスチック	140	195	+55	+39.1%	+72	+25	+9	△ 42
その他事業	13	11	△ 2	△ 13.1%	△ 2	-	-	-
全社共通	△ 113	△ 115	△ 2	△ 1.5%	-	-	-	△ 2
合 計	187	393	+206	+109.8%	+147	+90	+32	△ 32

セグメント別 営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

		営業利益	営業利益の増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響	+19	+ 1,3-BGやエクオール、キラルカラムなどの販売数量増加
	価格影響	△2	△ 原燃料価格上昇
	その他	△4	△ 経費増加
スマート	数量影響	+28	+ 液晶パネル需要好調による販売数量増加
	価格影響	+2	+ コスト上昇に伴う価格是正
	その他	△2	△ 経費増加
セイフティ	数量影響	+20	+ 新規プログラム獲得による販売数量増加
	価格影響	+13	+ 為替影響
	その他	+4	+ 在庫影響
マテリアル	数量影響	+10	+ コロナ禍からの需要回復による販売数量増加
	価格影響	+52	+ 酢酸市況上昇、コスト上昇に伴う価格是正、為替影響
	その他	+13	+ 在庫影響
エンジニアリング プラスチック	数量影響	+72	+ コロナ禍からの需要回復による販売数量増加
	価格影響	+25	+ コスト上昇に伴う価格是正、為替影響
	その他	△42	△ 直接販売費増加

通期予想（※）に対する進捗率

全社業績	2022/3 3Q実績	通期予想	進捗率	セグメント別 売上高・営業利益	売上高			営業利益		
					2022/3 3Q実績	通期予想	進捗率	2022/3 3Q実績	通期予想	進捗率
売上高	3,430	4,480	76.6%	メディカル・ヘルスケア	146	190	76.8%	26	27	95.2%
営業利益	393	380	103.4%	スマート	240	300	80.1%	49	42	115.9%
経常利益	432	420	102.8%	セイフティ	503	690	73.0%	44	50	87.0%
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	235	240	97.9%	マテリアル	892	1,160	76.9%	183	190	96.5%
				エンジニアリング プラスチック	1,568	2,030	77.2%	195	215	90.8%
				その他事業	80	110	73.0%	11	16	69.9%
為替レート USD/JPY	111	110		全社共通	-	-	-	△ 115	△ 160	71.9%
				合 計	3,430	4,480	76.6%	393	380	103.4%

※ 2021年11月5日に発表した業績予想です。

- 為替レート（USD/JPY） 2021年10月～12月： 予想110円 ⇒ 実績114円
- スマートはディスプレイ事業の販売数量が計画を上回ったことにより、収益が計画を上回った
- マテリアルは酢酸市況が計画を上回る水準で推移したことに加え、アセテート・トウなどの販売数量が計画を上回ったことで収益が計画を上回った
- エンジニアリングプラスチックは物流混乱などによる販売数量減少の影響があるものの、為替の影響や、POM・PBTを中心にコスト上昇に伴う販売価格是正を強力に推進したことにより、収益は計画を上回った

大型投資案件の状況

◇ 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの状況

- 22年6月の商業運転開始に向けて、22年1月より試運転を開始

◇ 化粧品原料（1,3-BG）プラントの状況

- 22年7月の商業運転開始に向けて、要因変更に伴う客先承認のためのサンプル出荷を実施中
- コロナ禍による製品市場環境の悪化や足元の原燃料コストの動向から、投資決定時に想定した投資回収は困難と判断し、減損損失84億円を計上

（参考） 大型投資案件に関する減価償却費の見通し

（単位：億円）

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
今回計画	0	105	105	80	60
【参考】 中期戦略（21年2月公表）	130	115	85	65	50
【参考】 期初計画（21年5月公表）	45	135	100	75	60

連結貸借対照表

(単位：億円)

		2021年 3月末	2021年 12月末	増減
流動資産		3,125	3,343	+218
	現預金及び有価証券	915	766	△ 149
	受取手形及び売掛金	932	997	+65
	棚卸資産	1,087	1,301	+214
	その他	192	279	+88
固定資産		3,279	3,453	+175
	有形固定資産	2,197	2,278	+81
	無形固定資産	106	102	△ 4
	投資その他資産	975	1,073	+97
資産合計		6,404	6,796	+393
負債		3,954	4,107	+153
	有利子負債	2,709	2,775	+65
	その他	1,244	1,332	+88
純資産		2,450	2,690	+240
負債純資産 合計		6,404	6,796	+393

- 運転資金増加に伴う現預金残高の減少
- エンジニアリングプラスチックなど、コロナ禍からの需要回復対応で減少した在庫の積み増しを実施
- 有形固定資産は、酢酸原料プラントなどの設備投資による増加がある一方で化粧品原料プラントの減損による減少もある
- 投資有価証券の時価が上昇

2022年3月期 通期業績予想の修正

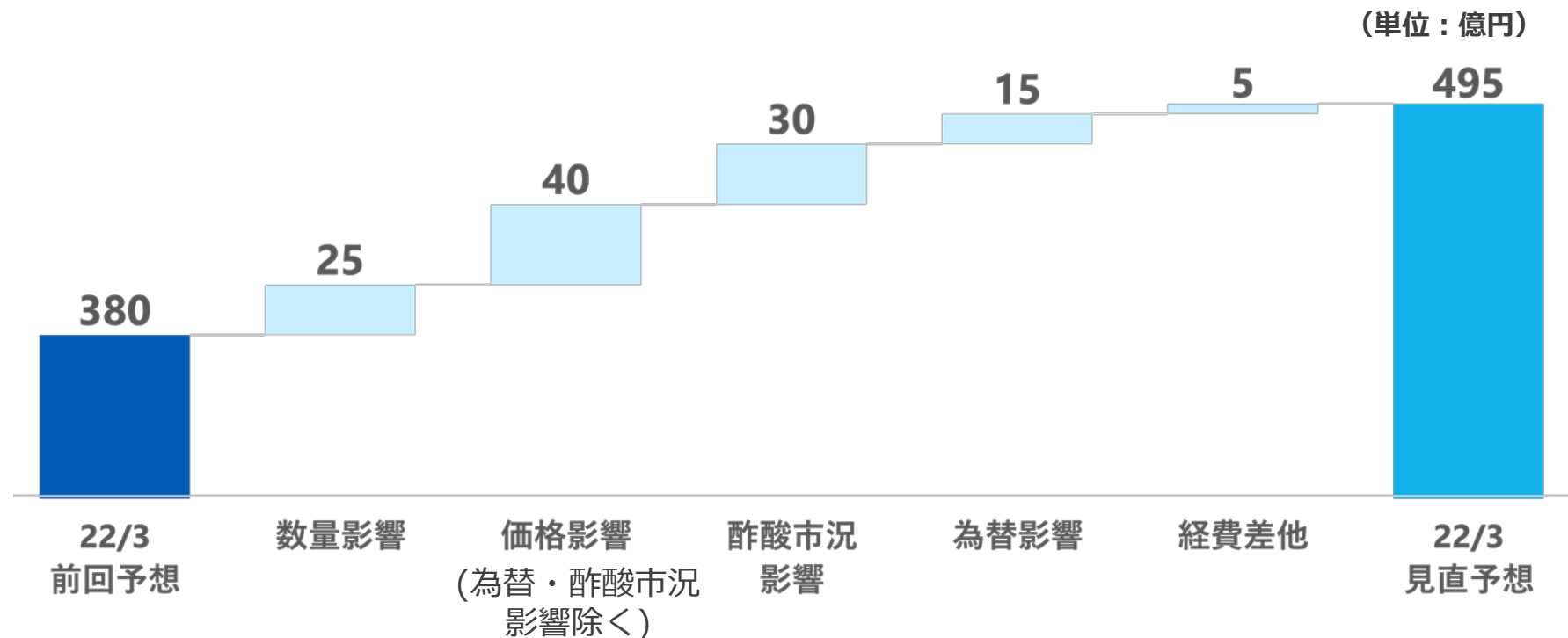
(単位：億円)

	2021/3 実績	2022/3 前回予想(※)	2022/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	3,936	4,480	4,620	+684	+17.4%	+140	+3.1%
営業利益	317	380	495	+178	+56.0%	+115	+30.3%
経常利益	347	420	535	+188	+54.3%	+115	+27.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	197	240	290	+93	+47.1%	+50	+20.8%
為替レート USD/JPY	106	110	112				

ROIC	4.1%	4.8%	6.2%
EBITDA	586	662	777

※ 2021年11月5日に公表した業績予想です。

2022年3月期 業績予想 営業利益増減分析（対 前回予想）



- 主に、スマートの液晶表示フィルム向け酢酸セルロースや機能フィルム、マテリアルのアセテート・トウの販売数量が増加
- コスト上昇に伴う販売価格是正の推進、4Qにおける原燃料価格前提見直し
- 為替レート (USD/JPY) 前提 下期：110円 ⇒ 114円
- 酢酸市況 (USD/ton) 前提 下期平均：750ドル ⇒ 910ドル

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2021/3 実績	2022/3 前回予想	2022/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	162	190	195	+33	+20.3%	+5	+2.6%
スマート	247	300	320	+73	+29.5%	+20	+6.7%
セイフティ	672	690	697	+25	+3.7%	+7	+1.0%
マテリアル	1,042	1,160	1,198	+156	+15.0%	+38	+3.3%
エンジニアリング プラスチック	1,686	2,030	2,100	+414	+24.6%	+70	+3.4%
その他	127	110	110	△ 17	△ 13.2%	-	-
合 計	3,936	4,480	4,620	+684	+17.4%	+140	+3.1%

営業利益	2021/3 実績	2022/3 前回予想	2022/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	16	27	31	+15	+98.6%	+4	+14.8%
スマート	34	42	60	+26	+75.8%	+18	+42.9%
セイフティ	22	50	62	+40	+177.9%	+12	+24.0%
マテリアル	179	190	240	+61	+33.9%	+50	+26.3%
エンジニアリング プラスチック	212	215	240	+28	+13.4%	+25	+11.6%
その他	15	16	16	+1	+8.0%	-	-
全社	△ 161	△ 160	△ 154	+7	+4.1%	+6	+3.8%
合 計	317	380	495	+178	+56.0%	+115	+30.3%

参考資料

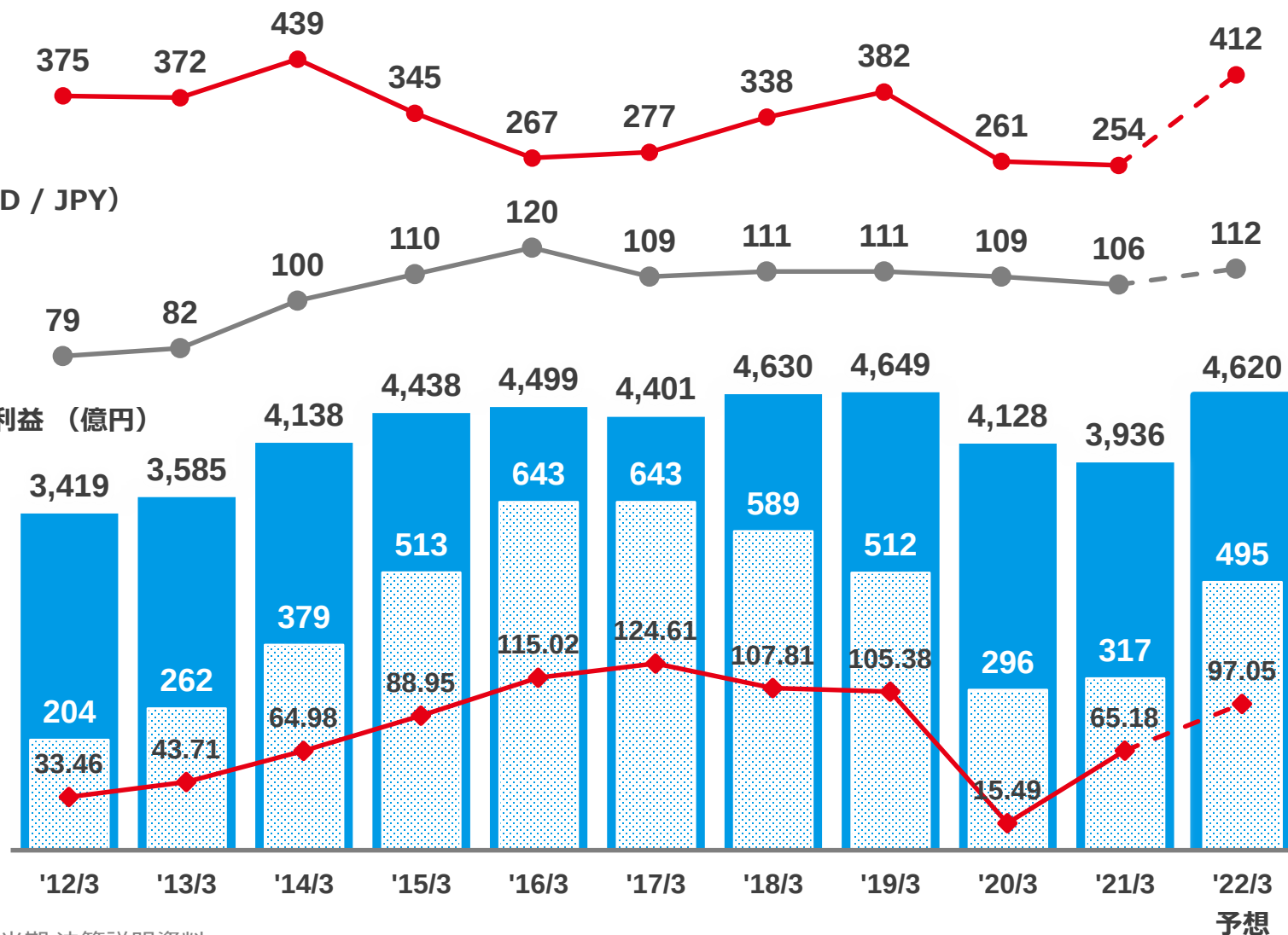
売上高・営業利益・EPSの推移

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

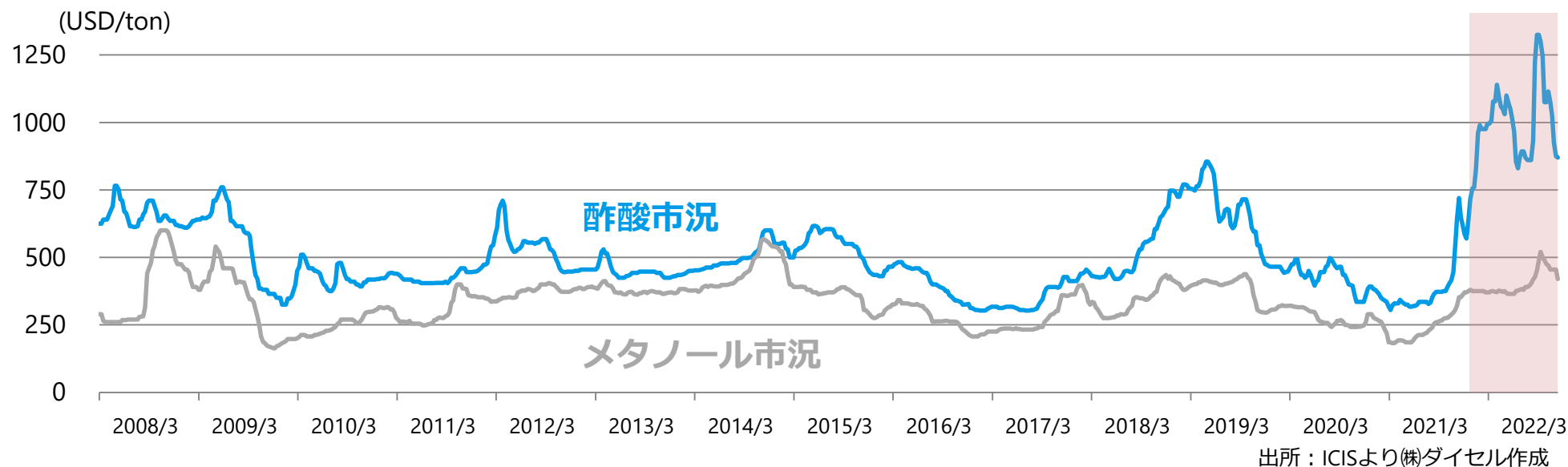
● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)



酢酸市況推移と変動要因



◇ 直近の主な酢酸市況の変動要因

時期	酢酸市況に影響を及ぼした事象
2021年2月	テキサス大寒波でアメリカの酢酸メーカーのプラント停止、フォースマジュール宣言による需給タイト化
2021年4月～6月	当社含むアジア域内の複数の酢酸メーカーの定修による需給タイト化
2021年7月	6月末に中国で新設プラント(50万トン)の稼働開始・各社定修明けによる供給回復により需給バランスは緩和
2021年9月	9月中下旬に中国政府による環境規制・電力制限の政策をうけて中国国内の酢酸メーカーが減産し、需給タイト化
2021年10月	中国の環境規制・電力制限の緩和に伴う、中国酢酸メーカーの供給回復により需給バランスは緩和

セグメント別情報（当第3四半期（10月～12月）の状況）

＜前回予想との変化点＞

メディカル・ヘルスケア	1,3-BGは、第4四半期からの前倒しで販売したことにより売上が計画より増加 - キラル分離事業は、海外でのカラム・充填剤の拡販に加えて、受託分取案件の一部前倒しや為替の影響により売上が計画より増加
スマート	- 液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースは、第3四半期からパネルメーカーの稼働調整が入ることを見込むも稼働が維持されたため販売数量が計画より増加し、売上も増加。機能フィルムは主にテレビ向けの新規採用の貢献により売上が計画より増加 - 電子材料溶剤、レジスト材料はフル製造を継続。レジスト材料は、既存製品の販売増に加え新規製品が拡大したことにより売上が計画より増加
セイフティ	インフレータの販売数量は計画並みとなり、売上も概ね計画並みとなった
マテリアル	- 酢酸・酢酸誘導体は、酢酸市況が想定よりも高い水準で推移し、売上が計画より増加 - アセテート・トウは堅調な需要や為替の影響により売上が計画より増加。 - カプロラクトン誘導体は、コスト上昇に伴う販売価格是正の推進により売上は計画より増加。エポキシ樹脂は電子材料用途などで販売数量が増加したことにより、売上は計画より微増
エンジニアリングプラスチック	物流混乱などにより販売数量は減少したものの、コスト上昇に伴う販売価格是正の推進や為替の影響により、売上は計画より増加

セグメント別情報（当第4四半期（1月～3月）の見通し）

＜前回予想との変化点＞

メディカル・ヘルスケア	1,3-BGは、販売の時期ずれにより売上が前回計画を下回る見通し - キラル分離事業は、海外でのカラム・充填剤販売は引き続き好調に推移するが、受託分取の一部案件の時期ずれなどにより売上は前回計画を下回る見通し
スマート	- 液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースは、パネルメーカーの稼働調整により、一旦在庫調整が入る見込みだが、前回計画からは売上が増加する見通し。在庫調整後は堅調な需要を見込んでいる。機能フィルムは、半導体不足による自動車生産減少の影響を受けるが、テレビ向けの新規採用もあり、売上は前回計画より増加、その後も増加を見込む - 半導体需要の好調により、電子材料溶剤やレジスト材料は引き続きフル製造・フル販売を継続し、コスト上昇に伴う価格是正などにより売上は前回計画より増加する見通し
セイフティ	- 自動車生産台数の回復によりインフレータの販売数量は増加し、売上は計画を上回る見通し - 春節により中国拠点の稼働率が低下する影響で、第3四半期からは減益 - 来期に向けて他拠点のコストダウンを前倒しし、グローバル収益バランスの改善
マテリアル	- 酢酸市況は第3四半期の水準からの低下を見込む - アセテート・トウは、顧客の在庫積み増し対応などにより売上が計画より増加する見通し - カプロラクトン誘導体は、世界的な物流混乱による当社への引き合いの増加に対応し、販売数量が前回計画を上回るため売上は増加する見通し。エポキシ樹脂はほぼ前回計画並みとなる見通し
エンジニアリングプラスチック	- 物流混乱による販売数量減少を見込むものの、コスト上昇に伴う販売価格是正により、売上は前回計画を上回る見通し - 在庫確保を目的とした販売調整の一巡により、来期の販売数量は増加する見通し

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

売上高	2021/3				2022/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
メディカル・ヘルスケア	39	39	42	42	48	48	50	49
スマート	51	52	73	71	80	75	86	80
セイフティ	107	165	195	205	163	156	185	194
マテリアル	256	237	256	293	283	298	312	306
エンジニアリングプラスチック	352	395	465	474	515	529	524	532
その他事業	24	37	30	36	26	28	26	30
合 計	829	924	1,060	1,122	1,114	1,135	1,182	1,190

営業利益	2021/3				2022/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
メディカル・ヘルスケア	4	4	4	3	9	10	7	5
スマート	6	4	10	13	20	14	15	11
セイフティ	△ 23	6	22	17	7	17	20	18
マテリアル	39	36	34	71	60	56	67	57
エンジニアリングプラスチック	39	43	58	71	82	69	44	45
その他事業	4	5	4	2	5	2	4	5
全社共通	△ 38	△ 39	△ 36	△ 47	△ 44	△ 36	△ 36	△ 39
合 計	31	60	96	130	139	133	120	102

2022年3月期通期業績予想

(単位：億円)

		2022/3 前回予想 (※)			2022/3 見直予想			増減
		上期予想	下期予想	年間	上期実績	下期予想	年間	
	メディカル・ヘルスケア	96	94	190	96	99	195	+5
	スマート	154	146	300	154	166	320	+20
	セイフティ	319	371	690	319	378	697	+7
	マテリアル	580	580	1,160	580	618	1,198	+38
	エンジニアリングプラスチック	1,044	986	2,030	1,044	1,056	2,100	+70
	その他事業	54	56	110	54	56	110	+0
売 上 高		2,248	2,232	4,480	2,248	2,372	4,620	+140
	メディカル・ヘルスケア	19	8	27	19	12	31	+4
	スマート	34	8	42	34	26	60	+18
	セイフティ	24	26	50	24	38	62	+12
	マテリアル	116	74	190	116	124	240	+50
	エンジニアリングプラスチック	151	64	215	151	89	240	+25
	その他事業	8	8	16	8	8	16	+0
	全社共通	△ 79	△ 81	△ 160	△ 79	△ 75	△ 154	+6
営 業 利 益		273	107	380	273	222	495	+115
経 常 利 益		298	122	420	298	237	535	+115
親会社株主に帰属する当期純利益		220	20	240	220	70	290	+50
(参考) 為替レート USD/JPY		110	110	110	110	114	112	

※ 2021年11月5日に公表した業績予想です。

為替レート・主要原燃料価格

		2021/3 実績		2022/3 実績+前回計画		2022/3 実績+見直計画	
		上期実績	下期実績	上期実績	下期計画	3Q実績	4Q計画
為替レート (USD/JPY)		107	105	110	110	114	115
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	192	316	377	500	443	450
	原油 ドバイ (USD/bbl)	37	53	70	85	78	75
	国産ナフサ (円/kl)	27,500	34,500	50,500	60,000	60,300	56,000

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。